

都の空

発行所

都の空事務局

事務局

東京都台東区東上野1-24-4

丸千第二ビル2F

浅野修一事務所内

TEL 03-3835-2233

FAX 03-3832-7175



東雲

八十路をこえる清田
榮一先生がそこにいた。
ルカ・パチヨリに始まる
複式簿記の起源から
福沢諭吉の帳合いのす

すめ、そこから現代に至までの簿
記会計学の発達史を西暦をまじえ
ながら滔々と祝辞を述べられた。
あの三商の教壇を思い出させるよ
うな少しも衰えを感じさせない雄
姿であった。三商会計人会への参
加者は、公認会計士、税理士、不
動産鑑定士、大学教授など多士才
で、それぞれ専門家として一家
をなしその職業的使命を果たし社
会に重きをなしているが、清田節
の前にはみな純真な学生時代に引
き戻されてしまう。

台東商業の校長へのご栄転
(昭和二十九)が決まり最後の授
業で(かにかくに越中島は恋しか
り想い出の教室想い出の師友榮一)
と啄木の歌よせて教え子との別
れを惜しまれたのが昨日のことの
ように思い出される。いずれにし
ても、われわれの今日は三商時代
に多くの先生方から受けた学恩と
生涯の友人を得た青春の賜である。
「都の空」を会議員各位の健筆によっ
て天下の三商の名にふさわしい機
関誌に育てたいものである。



平成4年10月5日

三商会計人会設立記念

於 東天紅



会長 あいさつ 母校の発展と親睦・情報交換をめざす

好川 栄 一 (昭和十二年卒)

この度、三商会計人会が設立さ

れ発足することとなりました。三商を卒業して現在公認会計士業務、税理士業務などに従事する人たちが相集って親睦を深め情報交換し、また微力ながらも母校三商における会計学研修のお役に立ちたいという希望をもって結成された会であります。

小生なども昭和九・十年ごろ簿記を教えて頂いた三商の第五代校長、清田榮一先生がかねてからの会の設立を提唱され、応えて、十八年卒の宮川隆一さん、二十九年卒の浅野修一さん、三十年卒の荻野弘康さんが非常なご尽力を下さって平成四年十月五日に設立総会開

催の運びとなった次第です。お三方の母校を愛し同窓を思うお気持ちとそこから発するご努力があったればこそ、この会が発足できたのであります。深謝申し上げます。

この国がいつの間にか世界の経済大国になり、経済活動が大規模化するにつれて企業会計の一翼を担うわれわれの仕事も極めて責任の重いものになりました。言わばやり甲斐のある、期待される仕事でありまして、この仕事に従事することに満足と誇りを持っておりませう。しかし他面、常に勉強を怠ること許されず、しかも各方面との繋がりをおろそかにすることのできない難しい側面を抱え

た職業でもあります。

そのように考える時、情報や連繋が極めて大切であり、三商会計会の存在意義も大きく浮上してくるよう感じられます。小生は上級生の故を以て会長に指名されましたが、会員諸氏のためにお役に立ちそうなお聞かせ下さい。出来る限りの努めを致したいと存じます。年を重ねるに従って、三商とは実は同窓仲間の中のみ存在するものとなってしまいましたので、この会が設立されたことは望外の喜びであります。この会の発展のために小生は一層の努力を尽す所存であります。



「都の空」創刊を祝う

校長 後藤安孝

三商會計人会の設立を心よりお慶び申し上げますと共に、機関誌「都の空」の創刊をお祝い申し上げます。

三商の輝かしい歴史と伝統は、幾多の有為な人材を社会に送り、その活躍に敬意を表するものであります。このたびは、三商を母校とする職業会計人の各位が三商精神を基に、さらなる発展と連携を深めるために会を発足されたことは誠に意義あるものと考えます。

三商會計人会は、去る平成四年十月五日、上野・東天紅において設立総会を盛大に挙行されたところであるが、このたび、機関誌「都の空」が、創刊されることになったことを心よりお祝い申し上げます。第である。凡そ団体のあるところ必ず機関誌が存在し団体が主張すべき論陣を高らかに張る可きで、若し機関誌が無かりせば画章留聲を欠くことになる。そこで私からも三商會計人会の好川栄一

また、機関誌名「都の空」は校歌の冒頭の詩句であり、このすばらしい校歌は、時鈴として毎時間全メロディーを放送しています。

私は、三商の六十有余年の歴史を踏まえ、時代の進展、社会の変化に対応し、商業教育の将来を展望して、三商教育の活性化のため、特色ある学校づくりを進めています。(1)三商にふさわしい新学科の設置を目指して、「会計科」の新設。(2)高学歴社会に向けて、推薦

会長始め一部の幹事諸君にこのことにつき示唆を与えたが彼等の努力の結果、ここに実現をみたことは欣快に堪えないところである。さて、三商の同窓における同業者の集まりとしては木材業者による木鐸会、築地の中央卸売市場の内仲卸業者の三水会があるがこれらに続いて公認会計士、税理士等の諸君がこのほど三商會計人会の結成をしたわけで私の記憶では、かなり以前から何名かの同業同窓生に

入学を含め大学進学への拡充。(3)教育の原点である教職員の研修体制の充実を図るため、年刊研究誌「三商紀要」の創刊。(4)三商は地域の学校として、学校を開放し連携を深めるため、公開講座を設置し、「ワープロ教室」、さらに本年は「簿記教室」の開講。(5)新生三商として心機一転を図るため、制服の改定。(6)三商PRの推進のため、中学校生徒・保護者・教員対象に体験入学等を実施している

この組織作りを呼びかけてきたものである。このたびの三商會計人会の設立の端緒というものを考えてみると本年二月二十三日、多摩墓地における吉沢徹先生募参会の節、宮川隆一、浅野修一の両名からこの設立の意図につき相談を受けたので結構なことであるから直ちに準備に入るように激励したことにあると思う。會計人会の組織活動に当っては先ずもって昭和五十九年版同窓会々員名簿、最近

ところであります。會計科は、商業教育の中心分野である簿記会計を専門的に深め、公的職業資格の取得を目指し、幅広い會計人の育成を目的とするものであります。二年目を迎えた會計科は、昨年十二月の試験終了後に、改装された六日町山寮を利用して、二泊三日の簿記合宿を実施いたしました。會計科への目的意識を明確にして、簿記について基礎基本の完全習得を目指し、會計科の第一期生としての自覚をもたせ、同期生の連帯を深めることなどを目的としています。目的達成のため今後とも継続していきたいと考えています。

専門科目への社会人講師の導入は、免許状の有無を問わず非常勤講師として指導いただけることになり、東京都では、平成三年度より「市民講師」として制度化し、すでに実施している学校もあります。本校の商業科目について講師として、または、生徒達に職業に関する講話などをお願いすることができればと考えています。

先輩諸氏の社会における活躍は、三商に学ぶ生徒にとって指標であります。ご理解をいただきながら、温情ある激励とご支援を賜わりますようお願い申し上げます。お祝いのことばといたします。

発行の潮陽会名簿により関係同窓生の抽出を求めるよう両名に奨められたところである。七月七日、東天紅に設立世話人会が二十余名の世話人と私も同席して開催され会則(案)役員(案)一三〇名近くの会員名簿登載者の発表、私に顧問、上原孝吉、八田吉次、東霞時雄の旧三教諭に参与就任を求め、母校に平成三年より會計科が設立されたことに伴い講師派遣の件等の設立総会上程議案が審議され全議案決定されたことはご同慶の至りであった。今後、三商會計人会はこの機関誌、都の空発行を永く持

”木鐸たれ“ 第五代校長(顧問) 清田榮一

統一して会員諸君の心の拠り処として三商會計人会の運営の主軸とするよう望んで止まない。さらに三商會計人会の事業で刮目に値していることは、母校に設置されている會計科の生徒の簿記会計授業の補講に一名の会員が平成五年四月より市民講師として東京都教員会により任用されて担当することである。このことは公立、私立の商業高校において全国的に唯一、正に嚆矢と云う可きものである。年を経る毎に充実を計り母校の活性化に寄与されることを期待して止まない。

三商会計人会の設立を祝う

日本公認会計士協会東京会

会長 長木 村久 彌

三商会計人会の皆様、会計人会の設立おめでとうございます。また機関誌「都の空」の創刊号にお祝辞を載せていただく機会を与えられましたことを光栄に存じ、厚く御礼申し上げます。

東京都立第三商業高等学校は、昭和三年一月に東京府立第三商業学校として設立され、平成五年

一月には満六十五周年を迎えられるとのことですが、その間幾多の英才を輩出され、世に三商の名を高からしめたことは、ご同慶の至りに存じます。

三商ご出身の公認会計士、税理士の方々が、寄り集い、このたび三商会計人会をせつりつされたことは非常に意義深いものと思いま

三商出身の会計人の皆様が、折にふれ酒を酌み交し、先輩、後輩の絆がかたまり、三商会計人会の輪がますます広がるものと信じます。

会計人会の設立を機に、三商ご出身の会計人の皆様がますますご健勝にてご発展くださいますようお祈り申し上げます。

祝 辞

東京税理士会

会長 長関 本和 幸

三商会計人会の機関誌「都の空」の創刊号の発刊を心からお祝い申し上げます。

ご承知のとおり、昭和十七年二月に制定された税務代理士法から数え、税理士制度五十周年にあたる本年は、税理士会を挙げて記念式典並びに記念事業が実施され、税理士並びに税理士制度について、

内外の注目を集めました。

この記念すべき年にあたり、三商会計人会が設立され、事業の一環として機関誌が発行されますことは誠に意義あることと存じます。また、会員の皆様には本会並びに支部役員として会務運営に多大なご協力を賜っておりますが、この機会に厚くお礼を申し上げます。

であります。

貴会の団結力の結果であります。「都の空」が愛され、親しまれる機関誌として今後のご発展を願うとともに、来たるべき二十一世紀の税理士制度の確立に向け、大いなる飛躍を望んでやみません。最後に三商会計人会並びに会員各位のご発展とご健勝を心から祈念し、お祝いいたします。

祝 辞

同窓会会長 都 築 健 一

時下錦秋の候益々のご清栄の事とお喜び申し上げます。このたび三商会計人会の創立総会が盛大に開催され三商同窓会の強力な外郭団体が誕生し力強い限りでございます。従来も業者の会として築地魚市場の水産関係の三水会。木場の木材関係の木鐸会等があり、それぞれ傳統を誇って活躍されてお

ます。この度さらに会計人という三商の商業教育にもっともふさわしい会が発足され、学校当局はもとより、同窓会としても何よりの朗報と存じます。今後は何かと学校の商業教育特に会計課目にお力添え賜わり度く、お願い申し上げます。三商会計人会の益々の発展をご期待申し上げます。ご活躍ご健勝を祈ります。

機関誌「都の空」の充実を期す

副会長 高 木 菊次郎 (昭和十四卒)

新年明けまして、おめでとうございます。昨年10月には三商会計人会が発足致しました。これは永年待望されていた会でした。特に恩師清田先生には前々からお勧め戴いて居りましたが、この程、宮川隆一(会員(昭18))・浅野修一(会員(昭29))の両氏と続いて荻野弘康(昭30)の三名の方が推進力となつて、日常の業務多忙の中を献身的に会の設立に努力されました。お蔭様で設立総会も盛大に挙行することが出来ました。

特に本会は会員の親睦のみならず母校三商における簿記会計学分野の学科の学習充実に寄与することも目的として居ります。幸いに本会には多士済々で、優秀な講師を派遣することが可能であります。更に、機関誌「都の空」を発刊することになり、会員の研究成果・業務内容紹介・資格試験合格記など会員及び三商生にも大いに参考となる記事が発表されることになると期待されております。そして我が三商会計人会にありと業界・学界に胸を張りたいと思っております。

三商會計人会設立の経緯

幹事宮川隆一 (昭和十八年卒)

三商會計人会設立についての組織活動の端緒は本年二月二十三日、多磨霊園における初代校長吉沢徹先生墓前参会の墓前礼拝の帰路、私と浅野修一会員との間でこのことについて話しあい、この意図を清田先生にお諮りしたところ、(このことは、私として、かねて強い願望を懐いていたことで、何名かの同業同窓生に要望していたことである。君たちの意図を快哉をもって受止める。早速、着手す

るように)とのお言葉を頂いたことにある。私が會計人会の組織活動を開始するに当り基本方針として考えたことは三商同窓会活動の一環として捉えることとし、すでに同窓同業者の集まりとして活動している(一)木材業者による木鐸会(二)中央卸売市場の場内仲卸業者による三水会の組織に倣うこととした。

そこで、同窓の職業會計人である公認會計士、税理士、會計学者

等の抽出を昭和五十九年六月十日発行になる昭和五十九年版、母校同窓会会員名簿及び最近発行になる潮陽会名簿に求めて概略名簿を作成して、これを基礎に東京税理士会発行になる平成四年版、東京税理士会会員名簿及び最近、発行になる社団法人、日本公認會計士協会、東京会会員名簿と突合、検証し完成を期した次第である。

さらに、これによる名簿登載者に対し三商會計人会への参加勧奨

十月五日には東天紅上野店に六十五名の会員と顧問、清田榮一先生、参与、八田吉次、東葎時雄の各先生が参集し設立総会を盛大に挙行、総会終了後、別室にて和気あいあい裡に懇親会を開催した。当日は来賓として都築健一(同窓会長、後藤安孝学校長代理として篠塚良一教頭先生、岩瀬源先生のご出席を煩わし、錦上花をそえて頂いたことは無上の喜びであった。なお、学校側より派遣を要請されている市民講師の人選については、早稲田大学商学部教授片山寛会員(昭和三十一年卒)の推せんにより公認會計士、田村都彦会員(同年卒)に内定をみている。

脈打つ「リトルゼントルマン」

副会長石田五郎 (昭和十一年卒)

平成四年十月五日、われわれ三商卒業生中職業會計人が、かねてから待望の「三商會計人会」が設立されたこと誠に欣びに堪えませぬ。又、副会長に選任され今後会のため微力を尽す所存です。

私は、三商第四期生でかの二・二六事件勃発の年で、この頃から

日本の軍国化への傾斜が始り、私も軍隊生活を五年体験しましたが、初代校長吉澤徹先生の独自の少年教育理念で人生の処し方を教育された「リトルゼントルマンたれ」「最善」は今も身心に脈打っています。又、清田栄一先生の簿記は、私の税理士としての基礎となつて

います。

戦に敵はふりし身よき師得て 戦に敵はふりし身よき師得て 戦に敵はふりし身よき師得て 戦に敵はふりし身よき師得て 戦に敵はふりし身よき師得て

戦と建設の重荷 担い来し 道険しかり 大正のわれ

スクール・ジョーク

学生時代は学校へ行くのがとても楽しい。恐い先生、優しい先生、それでいて教師と生徒の温かい心のふれあい。中でも面白いのが教師のあだ名。三商教え歌にもいくつか出てくる。

ひとつとせ人とは見かけによらぬもの九州生まれの海坊主……………ダッサン……………

今村校長の海坊主は、我が師の恩をしばし忘れて申し上げればナルホド、ナルホドで異議なしである。

江戸時代ぶりの人形専門店

久月

本社	〒111	東京都台東区柳橋1-20-4	☎03(3861)5511(代)
大阪店	〒556	大阪市浪速区恵美須東1-10-13	☎06(643)3845(代)
名古屋店	〒470-01	愛知県愛知郡日進町浅田字平子4	☎052(805)5101(代)
札幌店	〒003	札幌市白石区菊水5条3-3-11	☎011(841)4743(代)
福岡店	〒816	春日市伯玄町2-3-2	☎092(592)3300(代)

建築材料販売

品目内容

<u>建材</u>	生コン	セメント	左官材料
	土木資材	コンクリート	2次製品
<u>炉材</u>	耐火煉瓦	セラミックファイバー	
	不定形耐火物	築炉工事	
<u>赤煉瓦</u>	TK特殊レンガ	施工工事	



株式会社 土 金

代表取締役 清水 誠 一

本社	〒112	東京都文京区後楽1丁目1番1号
営業本部	〒101	東京都千代田区三崎町2丁目22番18号 TKビル7F
		TEL 03(3262)6331番(代) FAX 03(3234)3649番
江戸川営業所	〒132	東京都江戸川区松江5丁目22番3号
		TEL 03(3680)9215番 FAX 03(3686)8541番

相続税では、相続財産の額の多寡に従って相続税の総額がきまり、その相続税の総額を各相続人が分担して国に納付することになっていきます。その分担は、各相続人それぞれが相続した財産の額が相続財産全体の額の中に占める割合によることになっていきます。

ところで小生が関与した件においては、この分担に問題がありました。A氏が死亡して三億円と評価される財産(大部分は土地)を遺し、5人のB相続人がこれを相続し、その5人がそれぞれ適法に相続税の総額を分担して納付しました。ところが数年後、3人の非嫡子が子としての認知を求め且つ相続財産の分割を要求しました。

裁判所がこれを認め、民法の相続分の規定に基づいてC3人に相続財産の26分の3を分与することとし、その調停の成立時における相続財産の時価が26億円であったので、すでに土地などを分割してしまつたB5人からC3人に金銭で3億円を交付することにきめました。いわゆる代償分割というのがこれでありませぬ。

この場合に金銭で3億円を受けたC3人が相続税の総額をどのように分担すべきなのか、という問題が生じました。従来の相続税法の

取扱いは、金銭はあくまでも金銭の額で評価されますから、その取扱いに従って金銭3億円は3億円と評価して、相続税の総額を計算する基となった三億円の中の3億円を交付されたとすれば、C3人は相続税の総額×3/13を負担すべきことになりませぬ。しかし、相続財産(大部分は世田谷区内の土地)の時価がA氏の死亡時から

中の一、五億円を相続したと見做すべきで、そうであればC3人は相続税の総額×15/13を分担すればよい、という考え方が成り立ちませぬ。別の言い方をすれば、C3人は元の13億円の中の3億円ではなくて、膨張した26億円の中の3億円を受けたと考えることになりませぬ。

C3人は後者の論理が正しいと26分の3が3億円に相当すること調停委員もB5人もC3人も合意して金銭3億円がC3人に交付されたのですから、C3人は相続税の総額の26分の3を分担するのが理に適つたことで、T税務署の主張するように金銭3億円はあくまでも3億円と評価し、それはA氏死亡時の相続財産13億円の中の3億円であるからC3人は相続税の

事例紹介

代償分割により交付された金銭の評価

好川栄一 (昭和十二年卒)

調停成立時まで急上昇して約26億円になっていたからこそ、その26分の3に相当する3億円が分与されたのですから、金銭3億円を元の13億円の中の3億円と評価して相続税の総額を分担することは合理的でなく、元の13億円が26億円に膨張した割合に応じて3億円は、3億円×13/26＝一、五億円と評価し、C3人は元の13億円の中

考え、その計算方法によって相続税の申告をしましたが、T税務署は前者が正しいとしてC3人に対し更生処分を行つてC3人に合計で約7千万円の追徴を課しました。C3人に代理を依頼をされた小生も後者が正しいと考えて、国税不服審判所に審査を請求しました。裁判所の調停において相続財産の26分の3の分与が認められ、当該

総額の13分の3を分担すべき、というの合理的でないと考えました。相続税法にも、公表されたその取扱通達にも、このような場合に金銭3億円を前述のように一、五億円に圧縮評価すべきとする規定は一切ありませんから、税務署も国税局も国税庁もこの件に関しては極めて慎重で、C3人の主張に

対して否定的でありました。小生は3年余にわたって何回となく文書を作成して国税不服審判所に提出しT税務署の処分が合理的でない旨を説明しました。金銭3億円を一、五億円に圧縮評価すべきこと、または3億円は26億円の中の3億円なのであって13億円の中の3億円ではないことを縷々説明して国税不服審判所の理解を求めました。

C3人が相続税の総額の13分の3を分担するのはどう考えても合理的ではなく、26分の3が然るべきで、取扱通達の如何にかかわらず相続税法の關係条文特に17条をじっくり読んで正しい判断をして欲しいと3年間主張し続けて、ついに国税不服審判所は重配を当方向かって揚げT税務署の処分を全面的に取り消す判決を下してくれたのであります。この結果を電話で聞いたとき、小生は一瞬、天に昇るような感じを味わいました。3年間の思いがやっと適えられたうれしさでありました。税務当局とやや距離をおいて判断する自由を持つ国税不服審判所がこのような英断を下してくれたことは、小生のうれしさは別として、日本の税務行政の将来にとって非常に喜ばしいことであつたと思ひます。

提言

不況克服に弾力的総合政策を

府立三商五期生 不動産鑑定士 島田 誠之助
(昭和十二年卒)

私の母校府立三商は昭和三年不況の嵐が吹きまわった世界恐慌の前夜、故人有名校長吉沢徹先生の指導下において東都越中島で創立し以後、多才才々の人物を世の中に送り、実業界は勿論のこと他の業界においても他校卒業生達の先頭に立って指導的役割を演じて世間の期待に答えて今日に到った。母校の卒業生は今や二万人に及んで夫々の道で活躍している。だが然し時は再びめぐり来たり、バブル経済崩壊後の平成不況の今日、我々三商OBの公認会計士、税理士、会計学者、不動産鑑定士、弁護士等百数十人が本年十月五日会計人会を発足させ、後輩たる「会計科」の生徒指導にあたるは勿論のこと、相互に団結協力してこの不況を打開し、知的活動を通して明るい社会建設のため立上ったのである。「不況の嵐の中に立つ」

これが我々三商OBの宿命であり天命であるように思えてならない。この会計人会の機関誌「都の空」の創刊にあたり、トップバッターとして私自身が日常痛感していることに対して筆をとることが出来るのはこの上もない名誉である。私自身は本来の意味における会計人でなくて不動産鑑定士であるが、職業上税制の土地に対して及ぼす重大な影響を痛感している。世界恐慌は金本位制度撤廃をもたらし、今日の経済の基礎は債権債務の最後の決済手段として土地本位制度を確立したが、バブル経済崩壊による資産のデフレ現象はこの土地本位制を動揺せしめている。土地に対する不当な税制による弾圧はこの経済基礎を根本的に崩壊せしめる事になることを銘記すべきである。苟くも不動産の価格はその最有効使用を前提として形成

されるものであるから、土地の有効使用を妨害する税制は根本的に撤廃すべきものだ。土地の投機的取引は当然国土法等により禁止されるべきものであるが、それを恐れて土地に対する弾力的税制はすみやかに改正されるべきものである。それは恰かも株式投機を抑圧するために経済界の監督的パロメーターである証券市場を弾圧して、経済社会を混乱させるものと同一である。税制は土地の有効利用を基本として考慮されねばならぬ。一例をあげれば土地を含む相続税の如き、一人が死んだ時に社会的富みの再分配の名に於て重税をかけている現状は一等国のとるべき政策ではなく死んだ時期により税の格段の差異が生じ公平原則に反するのみならず現状に於ては土地は細分化され有効利用は阻害され、住宅地域はスラムとなり、時

には犯罪地域と変化している現状を人々はなんと見るべきか。我々は飽く迄もこの土地を含む相続税に反対しているものであり今日の深刻化した不況は唯単なる財政金融政策で万事終われりとするものではなく税制改正を含めた弾力的総合政策を必要とする時代であり、又変革の時代でもある。我々三商OBの会計人会は唯単なる会計税務処理方法に依存するのではなく、確固たる現状確認の上に立脚し二十一世紀をにらんで現代の社会は唯単に現代人の所有物でなく美しい明るい社会を、また生々とした社会を通して個人の生命財産名譽を守る近代文明国家として子孫に残すべきものだという信念に基づき知的活動を相互に逞しいものにして頑張って行こうではないか。
(平成四年十一月十日記す)

憧れのバスガール

副会長 宮崎 隆
(昭和十三年卒)

学校へは三コースある、鷺谷から城東バスへ乗る、うまく阿部艶子のバスに乗れば遅刻しない。之で三つ目通りから学校だ。次は函番線の市電に乗る、ぶる下って越中島直三は余り頂けない。次は水道橋から函番線だ医科歯科大学の横を通って不動尊前迄うさぎ屋の横から一直線 校長にあつたらもう駄目遅刻だ、校門をくゞ

ると大西確郎がある。真黒い服に坊主頭、華が一面に生へて考へて見ればイー所だった、雨が降れば教室へ蟹が上つて来る。隣の飛行場ではプーか、『空の嵐』毎日の様に落ちる。一番イーのは自転車通学だ池の端から豊富町コーヒイー香りが通り一パイに漂ふ。清洲橋から学校十七、八分で到着だ。



- 昭和55年12月 新校舎改築に伴い、プール・図書館・講堂解体
- 昭和56年1月 新校舎建築着工
- 昭和57年3月 新校舎棟・体育館棟・プール棟完成
- 昭和57年4月 新校舎へ移転

青春

荻野弘康 (昭和三十年卒)

入学式で今村校長の演説を聞いた
都立三商は東京一の、いや日本一の、
いや東洋一の、いや世界一の商業
高等学校であると
いやーこれはすごい学校に入って
しまったものだ
よーし一生懸命がんばるぞ
パチパチと必死でソロバンをはじ
いた
目がつぶれるほど練習をした
夜はオヤジ譲りの古びた机に向か
い簿記棒で赤線を引く
簿記は最初がむずかしい、借方、
貸方、商品勘定………何のこと
やらさっぱりわからない

二期期になり秋風の吹くころ簿記
がわかった
要するに簿記は足したり引いたり
足したり引いたり繰り返しの
だ
図書館では武者小路実篤や吉川英
治を読んだ友情や宮本武蔵がよかっ
た
屋上では友達と語りハーモニカを
吹いた………
あの時計台もないがまた新しい校
舎が出来てまた素晴らしい青春が
生まれるのだろう

(略歴) 昭和30年卒業

昭和29年10月・明治大学経理研究所主催第一回

全国簿記コンクール団体優勝

(荻野、中川、西脇)

・個人総合優勝

昭和34年3月 中央大学卒業

第13回税理士試験合格

昭和39年3月 税理士登録、開業現在に至る



湯かき餅あられ處



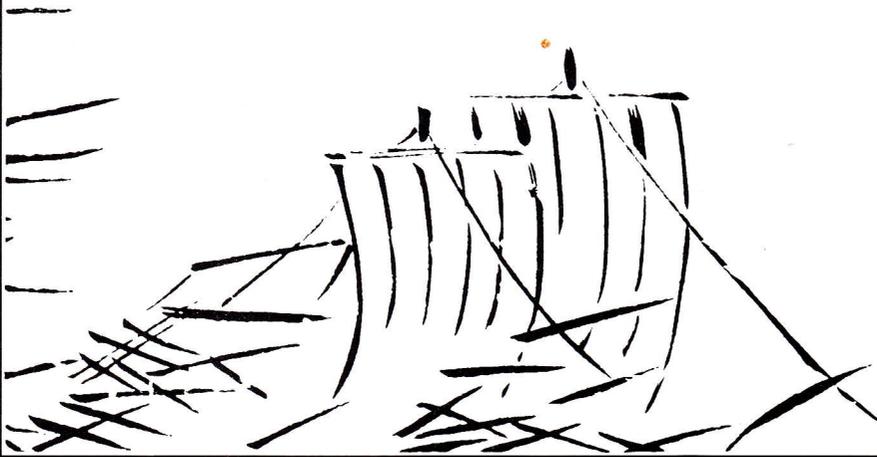
東京・銀座

入船堂本店

中央区銀座1-8-2 電話(3561)6009(店)・(3562)1371(代)



コーヒーショップ いろふね
スキヤ橋ショッピングセンター1F 電話(3571)3610



事務局からのお願い

幹事浅野修一

(昭和二十九年卒)

過日は、設立総会に多数ご参加くださいましてありがとうございます。お陰様にて三商會計人会が無事スタート出来ましたことを心から御礼申し上げます。

① 会員名簿の補正について
会員のみなさまに配布いたしました名簿は、同窓会、税理士会、會計士会などの名簿をはじめ、幹事のみなさんのご協力を得て会員対象者の把握に鋭意努力致しましたが、発足までの時間の制約もあって登載漏れの方もありませんかと危惧いたしております。

つきましては、会員の先生方におかれましてお気付きの登載漏れの方がいらっしやいましたら、事務局まで一報くださいますようお願いいたします。

② 会費の納入について
設立総会にご出席いただきましては、当日、年会費も含まれてお支払いいただきましたが、ご欠席の方には誠に恐縮ですが年会費2,000円を同封の振込用紙にてお振込くださいますようお願い申し上げます。

機関誌「都の空」の創刊をはじめ、活動の充実にも所要の経費がかかりますので、賢察の上ご協力の程をお願い申し上げます。

③ 機関誌「都の空」への投稿について
好川会長の発意により「都の空」が発刊されることとなりましたが、会員のみなさまのご協力によりハイレベルの機関誌に育ててまいりたいと思っております。事例研究、提言、論壇、随筆、健康法、私の資格取得法何でも結構です。たくさん原稿をお寄せください。

④ 当面の活動方針
新春早々幹事会を開催し、設立総会の総括、会員名簿の補正、機関誌「都の空」2号企画、当面の行事、定時総会をはじめ長期スケジュールの策定などの検討を行います。確定次第会員のみなさまにご連絡申し上げます。

★編集後記★
都の空の創刊号の編集が終わった。好川会長の発意によりスタートすることになったが、なにしろ素人広報である。企画から原稿依頼、発刊まで関係者各位に多大のご迷惑をおかけした。創刊号ということで日本公認會計士協会東京会の木村会長、東京税理士会の関本会長はじめ後藤校長、清田顧問などたくさんのご祝辞で紙面を飾っていただいた。また、三商同窓の経営者各位からご支援の賛助広告もいただいた。心より御礼申し上げます。

（幹事 荻野弘康）

役員一覧

顧問	清田榮一先生	参 与	八田吉次先生	上原孝吉先生	東 葭 時 雄 先生	好 川 栄 一	石 田 五 郎	富 崎 隆	高 木 菊 次 郎	岸 本 勝 次	遠 藤 忠 三	山 崎 順 三	宮 川 隆 一	増 田 昌 弘	駒 場 武 男	高 橋 俊 彦	杉 浦 康 雄	宮 沢 正 則	大 森 文 吉	監 事	平 野 欣 二
----	--------	-----	--------	--------	------------	---------	---------	-------	-----------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	-----	---------

※ 機関誌「都の空」の題字は、好川栄一会長にお願いしました。





香りはテレパシー。

見えない、けれど伝わる。

感じる、より心深く。言葉を超えて。

ダイレクトに心に沁み入ってくる。

豊かで、あふれるばかりのテレパシーとなって……

香り。その不思議を求めて、90年。

長谷川香料株式会社

〒103 東京都中央区日本橋本町4-4-14 電話03(3241)1151(大代表)
T. HASEGAWA U.S.A., INC. (California)
T. HASEGAWA CO. (S.E.ASIA) PTE. LTD. (Singapore)

